

同志社大学

# 法学部

法律学科  
政治学科

2024





# 多彩なキャリアへと続く道を開く 法学部の学び

法学部では、知的好奇心や将来の進路選択に応じて体系的かつ効率的に学べるよう、法律学科には4つの履修モデルを、政治学科には3つのコースを設けています。ただ漫然と学ぶのではなく、将来を意識しながら専門性を身につけていくことが目的です。また、プレゼンテーションやディベートを通して実践的な問題解決能力の体得を目指す演習（ゼミ）や、原典を深く読み込む外国語教育など、高度な専門性を支えるための教育にも力を注いでいます。

大胆に、そして柔軟に。  
それが、あなたの論理的思考力を大きく育む



法学部長  
カ久 昌幸

同志社大学法学部パンフレットをご覧ください、ありがとうございます。

みなさんは、法学部での学びに関心を持っていることと思いますが、法学部についてどのようなイメージを持っていますか。もしかすると、法学部で教えられている法学や政治学という学問について、ハードルが高い印象を持っている人がいるのかもしれませんが。

実は、法学や政治学という学問はみなさんにとって身近なものであると言うことができます。みなさんは学校など何らかの組織に所属していると思いますが、組織の運営には学校の校則のようなルールが必要です。そして、ルールを定めるためには、組織のメンバーの間で意思決定しなければなりません。ところが、メンバーにはさまざまな考えや利害があるために、多くの人が納得できる決定をするのは容易ではありません。さらに、学校よりもはるかに大きな国家や国際社会におけるルール（国内法、国際法）の決定は、いっそう困難であると言えるでしょう。

こうした身近なレベルからグローバルなレベルにまであまねく存在する、さまざまな利害の対立や価値観の衝突を調整し、一定のルールを定めるための制度や過程を検討するのが法学や政治学の主要な課題です。このような法学や政治学を学ぶためには、法律や政治に関する知識を身につけることが重要であり、そのために同志社大学法学部では実に多様な科目が設置されています。

しかし、知識の習得以上に重要なのが、一般に「クリティカル・シンキング」と呼ばれる、物事を鵜呑みにせず、根拠にもとづいて自分の頭で考え、合理的な解決策を導く思考法です。価値観が多様化し、従来のやり方が通用しなくなっている現在、クリティカル・シンキングの重要性が高まっているようです。そこで、同志社大学法学部では、1年次から4年次まで演習などの少人数科目を設置して、法律や政治の課題について、自ら問題を発見し、解決するための思考力・判断力を涵養することに力を入れています。

法学部での学びを通じて、みなさんが社会のさまざまな分野で活躍することを期待しています。

## 法律学科

法律学科  
[履修モデル] >P.03

- 公務員モデル** 国家公務員や地方公務員などを目指して学びます。
- 法曹モデル** 法曹三者や裁判所事務官、司法書士などを目指して学びます。
- 企業法務モデル** 民間企業への就職や企業法務専門の弁護士を目指して学びます。
- 基礎法学モデル** 現代社会が抱える問題に向き合うための法知識を学びます。
- 法曹養成プログラム (法曹コース)** 法曹三者(裁判官・検察官・弁護士)を育成するためのプログラムです。規定の科目を優秀な成績で履修することで法曹を目指すルートが広がります。

## 政治学科

政治学科  
[コース制] >P.05

- 現代政治コース** 政党、選挙、行政、地方自治、有権者の政治意識などから現代政治のメカニズムを総合的に学びます。
- 歴史・思想コース** 日本・アジア・ヨーロッパの政治と思想の流れを理解することで、現代を考察する目を養います。
- 国際関係コース** 安全保障や国際機構、各国の政治や外交について学びながら国際政治の幅広い理解を目指します。

## 在学中のサポート

- ▶ 実務家による講義で現場の理解と卒業後の進路選択をサポート >P.06
- ▶ 法学教育の新たな可能性に取り組む「企業法務プロフェッショナル」 >P.07
- ▶ ワンランク上の専門性を磨くための大学院連携

## これからの進路選択

- ▶ 法学研究科 >P.08
- ▶ 法科大学院

## 将来の活躍の場 >P.10

法曹：裁判官、弁護士、検察官／公務員／税理士／政治家／研究者／司法書士／教員／民間企業：金融、メーカー、商社、コンサルタント、メディア など

Twitterで情報配信中  
「法職講座@同志社大学法学部」



# 法律学科

**履修モデル** 学生一人ひとりが希望進路や興味に応じて選択履修するためのガイドラインとしてキャリアに直結する学びを支えます

## 公務員モデル

国家公務員、地方公務員などをを目指す学生を対象としたモデルです。憲法、行政法関連科目（地方自治法、環境法など）を履修し、公務員になるために、そして公務員になってから必要とされる知識を修得します。



公務員モデル  
3年次生（取材時）

公務員になるために必要な法科目が履修モデルで明確に

同志社大学法学部に入学した理由は、履修モデルの制度があり、公務員になるために必要な法科目が明確になっていたからです。また、実際に公務員になってからも役に立つ知識を習得することができると考えました。公務員モデルでは、公務員試験に出てくる分野において、試験を意識した講義を行ってくださいます。難しい内容もありますが、教授が分かりやすく説明してくれます。ゼミや討論会では、レベルの高い討論や発表が行われており、毎回刺激を受けます。そのような環境の中で、法律知識に限らず、法的思考力を向上させることができていると実感しています。

## 企業法務モデル

民間企業で法律知識を活かして働きたいと思っている学生が対象。法書の中でも、企業法務を専門とした弁護士を目指す学生にも最適です。「民法」と「商法」を中心に、企業に関連する法分野を学びます。



企業法務モデル  
3年次生（取材時）

自分の興味や関心に合わせて積極的に学べる

法律は世の中のルールの延長線上にあり、日常生活やビジネス、生きていく上で必要なものだと思います。大学でその知識を身に付け、法律の知識を活かして民間企業で働きたいと思ったので、法律学科に入学し企業法務モデルを選択しました。履修モデルに沿った科目を中心に選択することで将来必要な知識を深く、効率的に学べています。また、企業法務モデルの講義だけにとらわれず、自分の興味や関心にあわせて、他の履修モデルの講義を取ることで幅広く学ぶことができるのが魅力的だと思います。同志社大学には、ラーニング・コモンズや図書館といった自習のための環境も揃っているので、自分から勉強する力、知識が身につきました。

## 法曹モデル

裁判官、検察官、弁護士の法曹三者をはじめとする法律専門職を目指すには、憲法・民法・刑法などの基本的な法律分野を、幅広くかつ順序よく学修していくことが必要です。このモデルは、そうした学生の道しるべとなることを意図しています。



法曹モデル  
4年次生（取材時）

志を同じくする仲間がおり、後悔しない環境が整っている

私は大学入学時から法曹を志していたため、法曹モデルを選択しました。法曹三者となるには基本七法を中心に幅広く法律を学ぶ必要があるところ、法曹モデルでは初學者が学びを進めやすい順序で講義が配置されており、前に学んだ内容と関連させつつ学習を進めることができます。同志社大学には充実した講義・設備に加えて必ずあなたと志を同じくする学生仲間がおり、入学したことを後悔させない環境が整っています。私は在学中、これらを存分に活用して夢の実現に近づくことができました。卒業後は、司法試験を経て地域の紛争解決に貢献できる弁護士になりたいと考えています。

## 基礎法学モデル

激動する現代社会では、これまで自明とされていた法律学の基本原理が揺らいできています。当モデルは、法制史学、法哲学・法思想史、法社会学などの研究アプローチを紹介し、未知の問題に対応できる判断力と柔軟性を育みます。



基礎法学モデル  
3年次生（取材時）

学内の環境一つ一つがキャンパスライフを支えてくれる

入学以前から複雑な人間の社会を支える「法」に興味を持っていました。基礎法学モデルでは、社会を支える「法」に対する理解を深めることができると思います。法とは何か・正義とは何かといった根本的な問いかけに向き合うことを通して、多種多様な社会の問題に対しても洞察することができる点が基礎法学モデルの魅力です。キャンパス内の雰囲気は、明治以来の古い建物もあり、落ち着いています。図書館には資料等が充実しており、自習に最適です。また、ゼミやサークルなどを通して、親しい友人たちも作る事ができました。こうした環境一つ一つがキャンパスライフを支えており、私たちの進路設計を助けてくれていると思います。

## 法と社会のつながりを見つめる

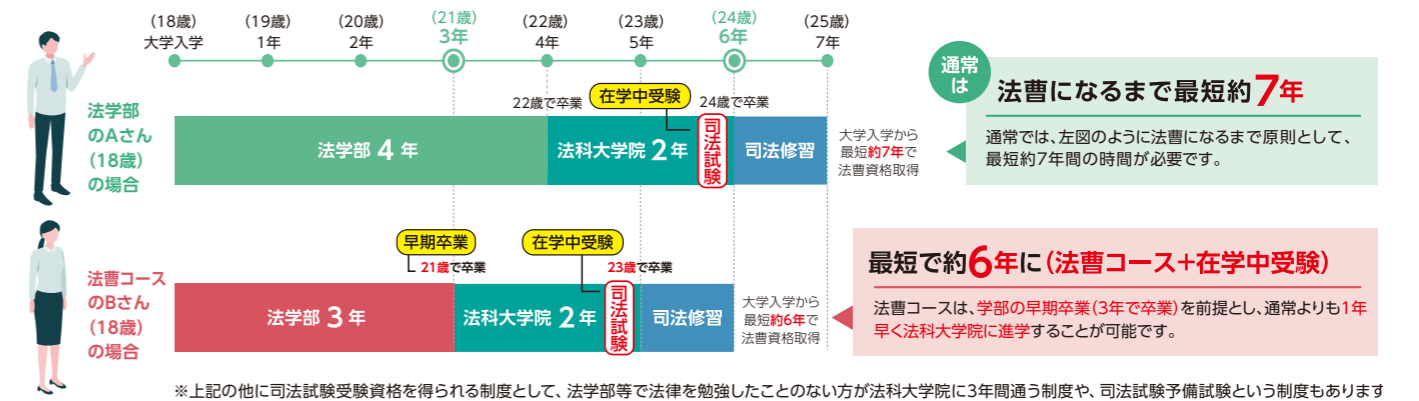
「リーガルマインド（法的な思考）」の養成を重視する法律学科では、入門科目→基礎科目→展開科目から成る「ステップアップ方式」のカリキュラムを採用しています。加えて、キャリアに直結する学びを支える「履修モデル」を導入し、実社会で活用できる能力の修得をサポートしていきます。

## 法曹養成プログラム（法曹コース）について

法律の専門家のことを「法曹」と呼びますが、法曹コースは、その中でも、司法制度の主な担い手である裁判官、検察官、弁護士を育成するための教育プログラムです。「法曹」になるには、司法試験に合格しなければなりません。かつて司法試験は誰でも受験できましたが、2012年度以降は、法科大学院を修了するなどして、司法試験の受験資格を得なければならなくなりました。

現在、司法試験を受験するためのルートとしては、法科大学院を修了するルートのほか、予備試験に合格するルートがあります。予備試験は学部在学中でも受験することができますが、予備試験の合格率は4%前後とかなり厳しいこともあって、多くの方は、法科大学院に進学しています。学部を4年で卒業後、大学院を修了してから司法試験を受験するとすると、「法曹」になるまでに時間がかかります。その時間を短縮するために考えられたのが、法曹コースです。法曹コースでは、法学部が特定の法科大学院と連携し、法科大学院教育の一部を担うことにより、原則として「学部3年+大学院2年」で司法試験を受験することが可能となります。同志社大学法学部は、同志社大学法科大学院および神戸大学法科大学院と連携しています。

## 「法曹コース」は何が違う？ ～法曹になるまでのプロセス～



### 法曹コースの学生向けの特別選抜

### 法曹コースの学生もそうでない学生も受験可能

#### 5年一貫型教育選抜

論文式試験が課されない  
■同志社大学：書類審査  
■神戸大学：書類審査 + 口頭試問

#### 開放型選抜

論文式試験が課される  
◆左記協定先以外の法科大学院も受験可能

#### 一般選抜

論文式試験が課される  
■既修者コース：法律科目試験  
■未修者コース：小論文試験

（パンフレット「法曹を目指すあなたへ」より）

## 法曹コース 法科大学院 合格者の声



神戸大学大学院  
法学研究科 合格

法律学科3年次生  
（取材時）

法律知識を知るだけではない学び

法曹コースでは自ら法律文書を作成し、弁護士の先生方に添削していただける等の多様な科目が設置されています。これらの授業を通して自己の不足している知識を把握して勉強すべき内容が明確になるとともに、法律知識をただ知っているだけでなく、理解し、使うことができるようになったことで法科大学院に合格することができました。



同志社大学大学院  
司法研究科 合格

法律学科3年次生  
（取材時）

1年でも早く司法試験に向けた学びを

法曹コースを選択した理由は、弁護士を志望しており、1年でも早く法科大学院での勉強を始め、資格を取りたいと考えたからです。司法特講などの特講科目では、法科大学院の先生方に教えてもらえるため、司法試験の答案を作成するために必要な知識を得られること、授業や即日答案を通して答案の書き方を学べるのが魅力です。

# 政治学科

**コース制** 最新の政治学研究成果を取り入れた体系的なカリキュラムです

## 現代政治コース

政党、選挙、行政、地方自治、有権者の政治意識などを学び、現代政治のメカニズムを理解します。コンピュータによるデータ分析にも力を入れています。



現代政治コース  
3年次生 (取材時)

### 自分の興味関心に合わせた履修を組むことができる

私は、相互作用する現代政治の本質に関心を持ち、また、ニュースで報道されている日本政治の裏側を知りたいという考えから、現代政治コースを選択しました。政治学科には必修科目がないため、それぞれの学生が自分の関心分野に合わせて履修を組むことができます。政治学科での学びを通し、政治とは政治家によってただ策定されているものではなく、有権者や圧力団体など複雑に絡み合うアクターが影響しあって形作っていることを知りました。大学の環境は、インターネットの設備だけでなく、親身になってくださる先生方が多いので、本気で政治学を学びたい学生にとって非常に充実した環境が用意されていると思います。

## 日本と世界の政治を読み解く

政治学科では、最新の政治学研究成果を取り入れた体系的なカリキュラム「コース制」を用意しています。2年次秋学期より、「現代政治」「歴史・思想」「国際関係」の中から関心に沿ったコースを選択し、専門知識を修得。絶え間なく変動する国内外の政治を冷静に分析し、21世紀のあるべき姿を構想する確かな力を身につけるための学びがここにあります。

## 国際関係コース

安全保障・国際機構・国際政治経済についての知識を深めるとともに、アメリカ・ヨーロッパ・中国・東南アジア・アフリカなどの政治を総合的に把握します。

国際関係コース  
3年次生 (取材時)

### 自分のやりたいこと、深めたいことに何不自由なく取り組める環境に感謝

高校生の時に選択していた政治に関する授業が、非常に興味深かったため、大学で政治への学びを深めたいと考え、進学を決めました。特に、思想、国際、日本と多岐にわたる政治についての分析や検討を行うことができるカリキュラムが私にとって魅力的でした。同志社大学は一言で表すと自由な大学だと思います。自分のやりたいこと、深めたいことに何不自由なく取り組むことができます。何か目標があれば、それを後押ししてくれる友達や先輩、教職員の方々が在籍している環境が同志社大学に進学してよかったと思える点です。卒業後は、民間企業に就職しようと考えているため、就職活動に動んでおりますが、大学で出会った仲間と情報共有をしあいながら取り組むことができます。



## 歴史・思想コース

日本・アジア・ヨーロッパの政治に関する歴史と思想の大きな流れを理解することによって、時代の変動期にある“現代”をより深い視点から考察する目を養います。



歴史・思想コース  
3年次生 (取材時)

### 他コースとの横断的な学びで政治と歴史・思想の関係に気づくことができた

進学の決め手となったのは、進路選択の年に起こった、黄色いベスト運動(フランスでの燃料税引き上げに反対するデモ)です。デモが大きな影響力を持つという、国の歴史やそこから派生する国民性など、様々なものが政治と深く結びついていることに興味を覚え、歴史・思想コースで学ぶことを決めました。政治学科のいいところは、選択する授業の自由度が高く、他コースの授業も幅広く受講することができる点です。横断的な学びを通して、国際政治と現代政治と歴史・思想は深く結びついており、切り離せない関係にあることに気がつきました。各人の興味関心を尊重してくれて、カリキュラムの中でそれぞれが学びを深めていくことができる自由度の高い学部で学ぶことができ幸せです。

## 実務家による連続講義

### プロフェッショナルに聞く政治、外交、メディアの現場

政治学科では、政治や外交などの第一線で活躍した経験を持つ実務家による連続講義を設置しています。これらの講義では、通常の講義では得られない知識と刺激を受けることができます。現在、開講している科目は、元外交官による講義、新聞記者による講義の2つです。

#### 元外交官による講義

元外交官による講義では、近現代日本外交史及び安全保障政策の決定過程を取り上げます。前者では、日本の近代外交を世界史の中で振り返ることで、日本がどのような外交を展開したのか、第二次世界大戦に向かう日本外交の破局の原因とは何であったのかを探究します。また、戦後の世界で普遍的価値観を主張する日本外交はどのように展開してきたのかについても考えます。後者では、国家の安全保障政策決定過程を、国民、総理官邸(内閣官房)、外務省、防衛省、自衛隊などの連関の中で動的に考えます。また、安全保障政策の各論として、外交戦略を取り上げます。本講義では、外交交渉の当事者だからこそ知り得た外交の裏側など、文献やインターネット情報では分からない貴重な経験談を聞くことができます。

#### 新聞記者による講義

新聞記者による講義では、紙面を構成する様々な分野から毎回一つを取り上げます。過去の講義では、政治関連(政治・外交・安全保障、選挙)はもちろんのこと、それ以外にも、経済、教育、文化、医療、スポーツ、情報リテラシー、調査報道、報道写真などを取り上げてきました。そして、各分野で現在関心を集めている話題を素材としながら、日本及び世界で何が問題となっており、その解決には何が必要なのかについて、取材経験などを基に語られます。

以上の実務家による連続講義は、政策決定・実施の現場を理解するとともに、卒業後に国際社会やメディアで活躍しようとする学生にとって、大きな刺激になっています。また、講義を通じて喚起された問題関心を学問的に深めるために、多数の受講生が専門科目を幅広く履修しています。

# 企業法務プロフェッショナル育成プログラム

企業法務のプロフェッショナルを育成する

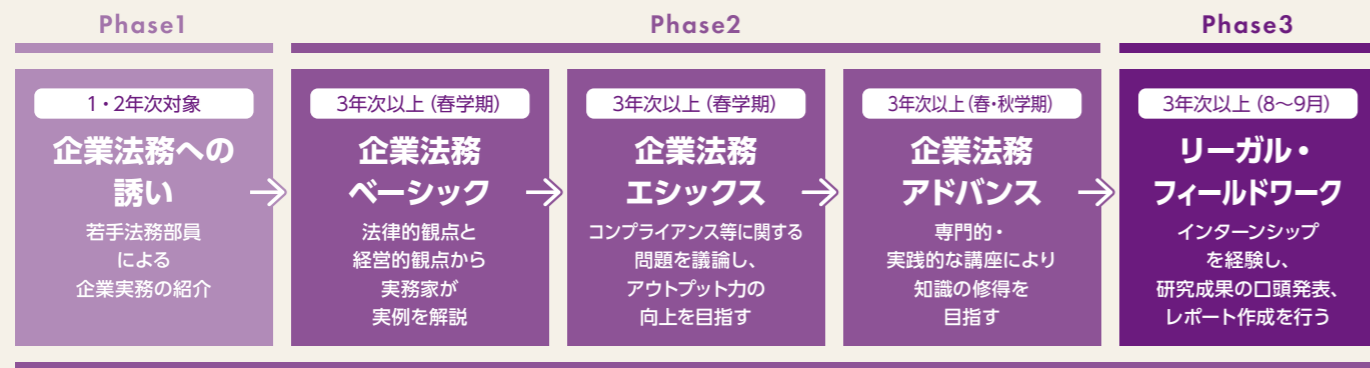
## 産学共同の新型インターンシップ『リーガル・フィールドワーク』

法学部独自のインターンシップ（企業内研修）プログラムである「リーガル・フィールドワーク」。このプログラムは、企業人と教員による個別指導を受けながら、企業の法務・知的財産部門に特化したインターンシップを体験できる点が特徴です。

参加学生は、自ら設定した研究テーマを「生きた法律」が体験できる場で追究します。企業内で法的な問題がどのように議論され、解決されるのかの実際を見聞し、法学への学習意欲がさらに高められます。

## ステップアップ方式で実践的な科目を受講

「リーガル・フィールドワーク」は、実務・就業体験を目的とした一般的なインターンシップとは違い、「生きた法律の現場で課題を追究する」という法学教育の目的に即したプログラムです。プログラム参加学生は、1年次からステップアップ方式で実践的な科目を受講します。これら教室で身につけた知識をもとに、現場で追究すべき課題を見つけた上で、「リーガル・フィールドワーク」に参加。フィールドワーク期間中は、企業人と教員の個別指導を受けながら、現場で生まれる疑問の解決と知識の定着を図ります。学生たちはこの体験を通して、「現場で、法律がどんな役割を果たしているか」「実社会で活躍する上で、自分には何が必要なのか」を肌で感じ、課題を解決へと導いていきます。



プログラム開発・実践

企業法務教育に関する研究会 同志社大学 × 企業

## リーガル・フィールドワーク 参加者の声



### 企業法務への一步

研修先：NISSHA株式会社

大学での学びを通して企業法務とはどのような職種なのか理解を深めましたが、自身に企業法務の一員として働く適性はあるのかが分からず、イメージを掴むためリーガル・フィールドワークに参加しました。リーガル・フィールドワークでは、法務実務の中で疑問に感じたことをすぐに法務部の方々に質問できるので理解が一層深まります。企業法務に少しでも興味のある方はリーガル・フィールドワークに参加してみてください。非常に有意義な経験となるでしょう。



### "法律に詳しいビジネスパーソン"を目指して

研修先：株式会社NTTドコモ

私は、契約書の審査や事業部からの法律相談等、企業というビジネスの主体で、生きた法律を扱うという経験によって、座学では学ぶことのできない法務の魅力と奥深さを学ぶことができました。また、座学で学んだ法的知識や法的素養のアウトプットの場として、自身の力試しができることと、足りないスキルやマインドを知り、今後の学びの指針とすることができる貴重な経験になると思います。このプログラムを通じて、法務パーソンとして働くイメージを持つことができたとともに、自身が目指す法律に詳しいビジネスパーソンへの一步を踏み出すことができました。



### 企業法務の役割を学ぶ

研修先：日本電産株式会社

リーガル・フィールドワークでは、実地研修を通して企業法務の最前線で活躍されている方や豊富なキャリアを積まれた方から企業法務のエッセンスを学ぶことができます。契約書レビューや法律相談等の実習、法務業務に関するレクチャーを体験することによって、大学での講義ではリアルに感じられない「法律が現実社会で果たす役割」について、当事者意識をもって考えるきっかけを持つことができます。実際に企業に赴いて業務を体験することは今後の進路を考える上で大変貴重な機会となりました。



### キャリア設計の大いなる手がかり

研修先：西尾レントオール株式会社

私が参加させていただいた企業のプログラムでは、和文及び英文契約書や、訴訟対応とその戦略の考案、日々の法務業務などを二週間にわたり、企業内の法務担当の方に対面でご指導をいただきました。普段の学びを生かすことのできる企業法務の面白さを感じると同時に、学術との違いや、自らに不足している法律知識を見いだすことができ、今後の学生生活への大きなモチベーションとなります。自らのキャリア設計を定めていくための大きな手がかりとなるのではないのでしょうか。

# 法学研究科

## 豊かな総合力を備えたスペシャリストの養成

同志社大学大学院法学研究科が目指すのは、高度な知識を持ちながら、豊かな総合力を有する人材の育成です。

そのために、多彩な専攻プログラムと充実した施設・設備、優秀かつ経験豊かな教授陣を整えています。

こうした万全の研究環境が、専門的できめ細かな指導を実現。

民間企業のほか、研究者、公務員など、政治や法律のスペシャリストとして、活躍の場が広がります。

## 専攻カリキュラム：3つの専攻で高度な理論や知識を体系的に修得

法学研究科では「政治学」「私法学」「公法学」の3つの専攻を設け、それぞれの分野で専門的な知識と能力を修得できるカリキュラムを導入。理論的学習のみならず、実務家を交えたディスカッションなどを通して、リサーチ能力とバランス感覚を備えた総合力・判断力のある人材の育成を目指します。



### 政治学専攻

「国際関係・地域研究」「政治過程」「政治史・政治思想」の3つの分野について、近年の学問動向を反映した標準的な科目を設置しています。政治学のどの領域についても、深く専門的に研究することができます。また、1年次春学期の「政治学基礎」では、政治学に関する基本的な知識や研究論文の要件などについて学習します。学部で政治学を専攻した学生はもとより、専攻しなかった学生でも、努力次第で大学院教育に適應できるよう配慮されています。

### 私法学専攻

私法学専攻では、「民法」「商法」「民事訴訟法」「国際私法」といった私法系の科目や、「労働法」「知的財産法」「経済法」などの現代的な科目を設置しています。

### 公法学専攻

公法学専攻では、「憲法」「行政法」「刑法」「国際法」といった公法系の科目や、「法哲学」「法社会学」「法制史」などの基礎法科目を設けています。

### 私法学専攻・公法学専攻共通

両専攻では、基幹科目に加え、キャリア設計を踏まえた多様な科目を用意しています。例えば、資格試験受験に有益な判例研究を内容とする科目（「ケーススタディ民法1・2」「ケーススタディ憲法」など）や、企業法務スタッフにとって重要度の高いビジネス関連科目（「ビジネス契約法」「ビジネスと知的財産法」「コーポレート・ファイナンス」など）です。これらの科目の履修によって、将来、志望する進路に進んだときに役立つ専門的な知識と洗練されたリーガルマインドの修得をサポートしていきます。



### 生産者側に立つということ

政治学専攻 博士課程 [後期課程] (取材時)

大学院生には生産者側に立つことへの強い自覚が求められます。論文の執筆や学会報告の準備には膨大な時間がかかり、卒論やゼミ報告の比ではありません。書き上げた論文を先生方や他の院生に見せると無数の指摘が付けられ、気落ちすることも多いでしょう。しかしながら、完璧な生産者などいません。誰もが失敗を繰り返しています。大学院はこうした生産者としての感覚や経験を仲間と共有できる刺激的な場です。どのような進路を選んだとしても、生産者としての感覚を養った大学院での経験はあなたの将来を支える力となるでしょう。



### 研究と教育の現場で更なる学びを

私法学専攻 博士課程 [後期課程] (取材時)

研究者を志し日々研究に打ち込むにあたり、どのような環境に身を置いたかが大変重要になってきます。本研究科では多言語の書籍及びデータベースへのアクセスが確保されているため、自身の興味のあるトピックについて各国の判例・文献を幅広く入手し研究を行うことができます。また、前期・後期の院生が共同で使用する研究室があり、院生同士が気軽に意見交換できるため、毎日様々な会話からアイデアを得ています。充実した研究環境のみならず、TAなどで実際に大学の教育現場に赴くことができるのも魅力的な点です。学部生の時に受けていた講義でも、TAとして参加すると違う視点から学ぶことが多くあります。



### 法律知識に留まらない能力の向上

私法学専攻 博士課程 [前期課程] (取材時)

本研究科では、報告の準備として、基礎的な知識の習得と法的論点の整理を自らで行います。その上で、講義にて、それらを教授の先生方や他の受講生に論理立てて説明し、議論することで理解を深めます。私は、このようなプロセスを通じて、より踏み込んだ法律知識だけでなく、多くの情報を体系的に整理する力や批判的思考が身についたと感じています。これらの能力は、その後の進路に関わらず、社会に出てから必ず必要になってくるものであると思います。皆さんも本研究科にて、高い志を持った仲間と共に、先生方による手厚い指導と幅広いカリキュラムを通じて、上記のような能力を磨いてみませんか？



### 充実した学習環境

公法学専攻 博士課程 [前期課程] (取材時)

私が進学しようと思ったきっかけは、学部のゼミで、一学期間で一つの判例について深く勉強するという経験をしたことです。それまでは、短期間の準備で多くの判例に触れるという勉強しかしたことがなかったので、非常に新鮮味がありました。企業犯罪についてもっと深く研究してみたいと思い、進学することを決めました。大学院では、毎回、担当の学生が一つのテーマについて発表し、議論する形式なので、学部時代以上に内容の濃い学習ができています。研究していてわからないことがあれば、すぐに先生方に質問できる環境も有難いです。直接尋ねても、メール等で質問しても丁寧に回答してくださいませ。

# ダブル・ディグリープログラム (2学位取得)

次世代リーダー養成を目指す

国境を越えて地球規模で発生するさまざまな問題に対して、多面的に取り組み、そして解決に貢献できる人材を育てることを目指して、「Prospective Leaders' Programmes : Innovation and Diversity in Learning」 という法学部独自の海外大学留学プログラムを実施しています。

## アリゾナ大学ロースクール (アメリカアリゾナ州ツーソン市)

全米で有効な司法試験受験資格が得られる

本来7年必要な課程を同志社大学法学部で3年、アリゾナ大学James E. Rogers College of Law (ロースクール) で2年の履修指導を受けることにより、双方の大学から学位を取得 (ダブル・ディグリー) することができるプログラムです。両大学卒業後には、全米各州で有効な司法試験受験資格も得られます。

### アリゾナ大学について

アメリカ南西部、メキシコと国境を接するアリゾナ州ツーソン市に本部を置く州立大学。州最古の研究大学として名高く、ロースクールには国内外で著名な教授陣が揃い、国内公立大学ランキングでも常に上位に位置しています。司法試験の初回受験者合格率は、毎年州平均を上回る70%前後を達成しています。

アリゾナ  
プログラム  
(2023年4月現在)

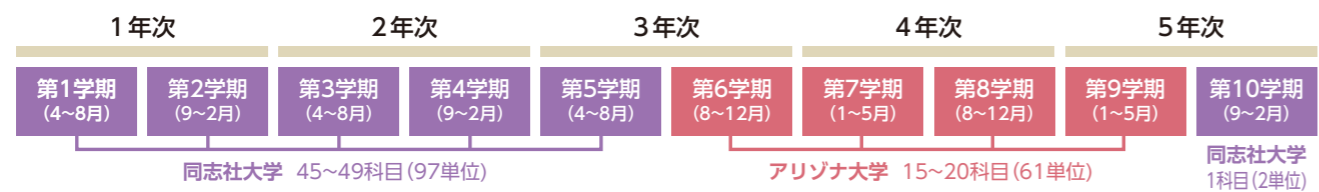


### 履修例

5年間を10学期に分けて履修します。1年次から3年次の春学期までは同志社大学、続く3年次の秋学期から5年次の春学期にかけてはアリゾナ大学において、それぞれの大学の科目群を履修。5年次の秋学期には再び同志社大学に戻り、残りの科目群を完修させます。なお、本プログラムは4年次生、または卒業後5年以内の卒業生も参加することができます。

### 卒業必要単位数

同志社大学での卒業必要単位数は128単位。そのうち最大29単位までは、アリゾナ大学で履修した単位を認定します。したがって29単位が認定された場合には、同志社大学での必要単位数は99単位となります。アリゾナ大学の修了必要単位数は90単位です (2023年4月現在)。そのうち最大29単位までは同志社大学での履修単位を認定するため、すべて認められた場合、アリゾナ大学での必要単位数は61単位となります。



## 修了生の声



### アリゾナで夢を現実に

高校生の頃の私の夢は、アメリカのロースクールを卒業することでした。同志社大学入学後、参加した国際商事模擬仲裁大会 (Vis Moot) で世界の壁を経験したことがきっかけとなり、その夢は決意に変わりました。2019年の夏から始まったアリゾナでの留学生活は、覚悟はしていたものの、決して楽なものではありませんでした。最初の学期は、毎日のように課される課題と予習・復習をこなすのが精一杯の日々でした。週末、学内サッカーリーグの試合に参加したり、友人と食事をしたりすることが貴重な息抜きとなりました。しかし、その翌年からは新型コロナウイルス感染症の影響で、対面式だった講義が全てリモートで行われるようになり、それまでの息抜きが制限されてしまいました。そんな孤立した苦しい状況

下、ビデオ通話等で家族や友人、大学の先生方とコミュニケーションをとれたことが唯一の救いでした。二年目には、現地の法律事務所に対面のインターンシップをすることができ、リーガル・リサーチや社内文書の執筆、クライアントや紛争の相手方への手紙の作成などを体験することができました。最終学期はあっという間に過ぎ去り、気付けば高校生の頃の夢が現実となっていました。国際舞台でも活躍できる自信を持てるようになったことが、このプログラムを通しての最大の収穫だったと思います。

現在は、アメリカの統一司法試験 (Uniform Bar Examination) の合格を新たな目標として前進しています。

単位互換  
プログラム  
(2023年4月現在)



### その他の協定留学プログラム (単位互換)

ダブル・ディグリープログラム以外にも法学部生を対象とした単位互換プログラムを実施しています。このプログラムでは政治または法律科目を中心とした単位取得を目的としており、単なる語学研修ではなく、英語または現地語で専門科目を学修したい学生におすすです。

#### 協定大学

モントリオール大学 (カナダ) / チューリッヒ大学 (スイス) / 東呉大学 (台湾) / ツールーズ第1大学 (フランス) / シエナ大学 (イタリア) / 雲南大学 (中国) / 中国政法大学 (中国)

# 卒業生インタビュー

法学部から社会に羽ばたき、活躍する卒業生から  
受験生の皆さんへメッセージ

### 記者

大川 哲拓さん 2017年3月卒業  
読売新聞大阪本社



法学部で身につけた  
論理的な力を活かし  
社会問題取材する

読売新聞で記者の仕事をしています。入社から5年間、福井支局や京都総局で高校野球などのスポーツや街の話題、選挙や原発など、様々なテーマと向き合ってきました。現在は警察担当記者として、事件や事故取材をしています。人の命を奪う犯罪や、交通事故が発生した際には、「背景に何があるのか」という視点で取材するように心掛けています。原因を明らかにし、世の中に伝えることで、再発防止につながってほしいと思うからです。高校生の頃から社会問題に興味があり、法学部政治学科に入学しました。ニュースで目にする政治や選挙について、うわべの現象面のみを学ぶのではなく、統計データなどを駆使して理論を導き出す手法が、とても新鮮に感じました。社会で起きる事象について、直感ではなく、客観的に考える力を養えたことは、記者の仕事にも活かしています。同志社には、様々な分野で活躍する学生や卒業生がたくさんいます。私が記者を志したのも、報道機関で仕事をする先輩から話を聞いたのがきっかけでした。まだ、明確な夢がないという人も多いと思いますが、同志社には、多様な人から刺激をもらえる環境が整っています。ぜひ、自分が進みたい道を見つけてください。

### 弁護士

前嶋 幸子さん 2006年3月卒業  
法律事務所リアン肥後橋



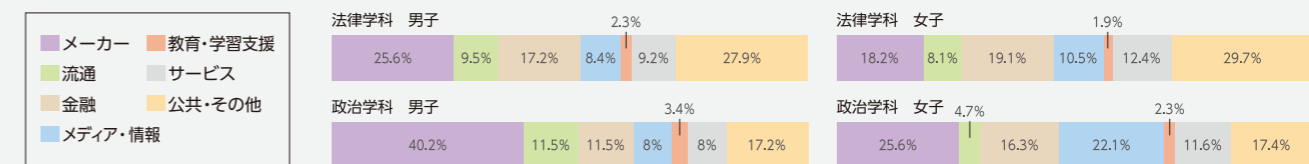
重みのある  
「ありがとう」を貰える  
弁護士という仕事

私は、2006年3月に大学を卒業したのですが、その後すぐにロースクールに進学したわけではなく、大学卒業と同時に結婚し、その後ふたりの子どもを出産しました。そして、4年ほどの専業主婦時代を経て、ロースクールに進学し、弁護士になりました。専業主婦をしていた私が、弁護士を目指したのは、「手に職を持ちたい」と思ったことがきっかけでした。「手に職を持ちたい」と思っても弁護士を目指す主婦の方はほとんど居ないでしょうが、同志社大学で曲がりなりにも法律の勉強をしたという自負があったことや、私がしっかり稼いで子どもたちに良い教育を受けさせたいという強い気持ちがあったことが、私を決意させたのだと思います。数年の勤務弁護士時代を経て、現在は大阪市内で個人事務所を経営しています。中小企業の顧問と離婚・相続などの家事事件をメインに、幅広い案件を取り扱っています。事案に苦戦することもあります。他の仕事では得られることのできないような重みのある「ありがとう」を貰うことができる素晴らしい仕事です。同志社大学法学部は、良い意味で真の「自由」を与えてくれる場所です。みなさんそれぞれの「自由」なキャンパスライフを送ってください。

## 就職実績 卒業生は、そのリーガルマインドを活かし、多彩な業界で活躍しています。

### 法学部 就職先・2023年4月採用

国家公務員/地方公務員/ダイハツ工業株式会社/大和証券株式会社/富士通株式会社/ハウス食品株式会社/株式会社ジェーシービー/関西電力株式会社/京セラ株式会社/株式会社京都銀行/三菱電機株式会社/株式会社三井住友銀行/三井住友信託銀行株式会社/株式会社村田製作所/日本生命保険相互会社/日本放送協会/株式会社ニトリ/オムロン株式会社/パナソニック株式会社/パーソルキャリア株式会社/楽天グループ株式会社/株式会社リクルート/積水ハウス株式会社/住友商事株式会社/東京海上日動火災保険株式会社/豊田通商株式会社/株式会社読売新聞 ほか多数



### 法学研究科 就職先・2023年4月採用

■民間企業 >> 株式会社アイシン/株式会社アシックス/大和ハウス工業株式会社/株式会社ファミリーマート/株式会社日立製作所/本田技研工業株式会社/アイリスオーヤマ株式会社/株式会社インダ/株式会社JERA/関西電力株式会社/KDDI株式会社/株式会社クボタ/株式会社LIXIL/株式会社村田製作所/日東電工株式会社/大阪ガス株式会社/パナソニック ホールディングス株式会社/塩野義製薬株式会社/住友ファーマ株式会社/住友生命保険相互会社/株式会社東芝/東洋エンジニアリング株式会社/株式会社読売新聞 ほか多数

■公務員 >> 国家公務員 (総合職・一般職) / 外務省専門職員 / 裁判所事務官 (総合職・一般職) / 家庭裁判所調査官補 (総合職) / 国税専門官 / 労働基準監督官 / 法務省専門職員 / 国会議員 / 地方公務員

■資格試験 >> 司法書士試験 / 税理士試験 / 弁理士試験 / 行政書士試験 / 国会議員政策担当秘書資格試験 ほか多数

■研究者 >> 研究者志望の人などは後期課程に進学します。最近では後期課程修了と同時に博士号を取得する「課程博士」が増えています。

## 同志社大学法学部 2024年度入学試験

### 募集定員

同志社大学法学部は、法律・政治学科あわせて893名(学則定員)の新入生を受け入れています。

法学部 法律学科	683名
法学部 政治学科	210名
法学部 合計	893名

### 入試の種類

#### 一般選抜入学試験

「英語」「国語」「地理歴史または公民または数学」の3科目入試です。  
全学部日程(2月5日)と学部個別日程(2月8日)あわせて2回受験が可能です。

#### 大学入学共通テスト利用入試を利用する入学試験

個別学力検査は課さず、大学入学共通テスト利用入試の合計点により可否を判定します。

#### 自己推薦入学試験

優れた語学力をもっている者が対象です。

#### 第3年次転入学・編入学試験

大学2年次修了(見込)者、短大・高等専門学校卒業(見込)者が対象です。

#### 外国人留学生入学試験

法学部で学ぶ意欲を持った外国人留学生を募集しています。

\*上記入学試験に関する詳細は入学試験要項をご覧ください。

## 人材養成に関する目的

### 法律学科

法律学科は、法学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおり、法学の専門的知識と、それを活用して法的問題の妥当な解決を図る能力(いわゆるリーガルマインド)を身につけて、法曹三者、企業の法務・知的財産・人事・総務部門、公務員、法律専門職、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とします。

### 政治学科

政治学科は、政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおり、政治学の専門的知識と、問題発見・解決能力を身につけて、公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とします。



◀同志社大学法学部HP  
<https://law.doshisha.ac.jp>



同志社大学  
法学部

〒602-8580京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL.075-251-3511 FAX.075-251-3064  
2023年5月19日発行



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。